

内閣参質第一八号

昭和二十五年二月十八日

内閣総理大臣 吉田 茂

参議院議長 佐藤 尚武殿

参議院議員栗山良夫君提出電力割当等に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員栗山良夫君提出電力割当等に関する質問に対する答弁書

一、昭和二十四年度第四、四半期における（イ）業種別、地域別の標準電力量の割当内訳及び（ロ）標準電力量に相当する水、火力発電量の内訳は別紙のとおりである。

二、学校、病院等で国又は公共団体等の経営している公共的施設のものに対しては実際に料金を適用する場合の緩和方法について研究していたが、差当り二月分については標準料金を適用する電力量を追加割当することとしたから一応救済し得ると考える。将来の問題としては使用基準を改正すべく目下検討中である。

三、原則として標準電力量の割当増減をしないことは現在でも変りないが、昭和二十四年度第四、四半期の計画においては、水力発電量の予想に多少の見込違いがあつたので二月分の供給力及び標準電力量を一部修正変更することとした。

四、農事用電力のうち灌漑排水等については、先般割当電力量によつて調整すると申したが、第四、四半期においては計画量の枠内において全国で二、三九〇万キロワット時の調整のための保留を繰込んであり、この運用については灌漑排水は優先的に取扱うよう出先機関に指示してある。

(單位、〇〇KWH石炭屯)

本州中央部
小計

1
總
計

四、九七六、八〇〇
四、七二二、二〇〇

三六四、K00

C
地帶間
融通

2 消費石炭

(1111, 100)

二、割当量

FOOI-KK

一四三〇、三六

六〇九、八八〇

九二、八九三

二五三

一九八二

三六三

Figure 1

四九、七九四

三七、八三九

2 業務住宅用

二六〇

三三八、六〇八

二六三〇号

一八七六五二

七四八六四八

3 小口産業用

五四、七八八

二六、六八五

二〇七、九四三

一九六、三六六

六三〇、六三二

4 特定大口産業用

二六七

三六四八二

二、九五六

三、九〇八

九三〇七

5 大口産業用

一九八、五四三

大正一七〇

三五、二五三

四六五、一七四

一、六六二、〇三九

三、保 留 分

111,000

四、余剩電力

(五五、100)

(その二)

		広島 四 国 福 岡 札 幌 全 国			
一、供給力					
1 総計	四七、二〇〇	二七三、五〇〇	九七三、四〇〇	二九八、四〇〇	六、九九九、三〇〇
A 水力	四〇〇、八〇〇	三三八、五〇〇	四八三、一〇〇	二二七、一〇〇	六、〇五〇、七〇〇
B 火力	一〇九、四〇〇	三三四、〇〇〇	四六七、三〇〇	七三、三〇〇	九四八、六〇〇
C 地帯間融通	(一三三、〇〇〇)		(十三、〇〇〇)		
2 消費石炭	(一三六、七〇〇)	(三三、四〇〇)	(三九三、八〇〇)	(八五、〇〇〇)	(九〇〇、〇〇〇)
二、割当量	三三八、六〇七	一八六、四七六	六九〇、八九三	二〇五、一八六	四、七六三、四二四
1 進駐軍	一六、〇三六	二、二五二	二七、九五二	三、六三九	二七七、六九七
2 業務住宅用	八五、五四九	四九、一〇九	一三三、三三九	四八、三三七	一、〇五四、九六〇
3 小口産業用	五三、四三三	二九、六三三	五五、一六三	二六、二九三	七六四、四〇五
4 特定大口産業用	一八、六六〇	四、八〇五	三七、〇九二	七、六九一	一六一、二八二
5 大口産業用	一五五、八六九	一〇〇、六三〇	四四七、三五六	二二九、二四六	二、四八五、一四二
三、保留分	一、八〇〇	九〇〇	七、二〇〇	一、〇〇〇	三、九〇〇
四、余剰電力		(三、〇〇〇)			(五七、一〇〇)

昭和二十四年度第四・四半期需給計画(一月) (その一) (単位、1,000KWH石炭屯)

仙 台 東 京 名 古 屋 大 阪 本州中央部

一、供 給 力

1 総 計

A 水 力

B 火 力

2 消費石炭量

3 地帯間融通

二、割 当 量

1 進 駐 軍

2 業務住宅用

3 小口産業用

4 特 定 大 口

5 大口産業用

三、保 留 分

四、余 剩 電 力

二、三三七、九四九

一、六九〇、六〇〇

二、〇八九、七七七

一、五八六、〇〇〇

一、四八、三三三

一〇四、六〇〇

(一〇、三三三)

(九、六〇〇)

二、一四六、六九四

七、〇五九

二五八、七四三

二〇九、〇七四

三〇、六一

五七三、二三六

四、五〇〇

(八、〇〇〇)

(その二)

広島 四国 福岡 札幌 幌 全 国

六

一、供給力

1 総計

A 火力

B 水力

2 消費石炭量

3 地帯間融通

二、割当量

1 進駐軍

2 業務住宅用

3 小口産業用

4 特定大口

5 大口産業用

三、保留分

一九七、一〇一	二一五、四六六	三九、四五六	二〇、四一七	三、〇六三、二六九
一四、五〇〇	九、五〇〇	三三六、四〇〇	一〇〇、〇〇〇	二、七三三、〇〇〇
一七五、二九四	二一三、一〇三	二五三、七七一	七九、四四四	二、七二一、二七九
三三、五〇〇	七四、五〇〇	一五七、四〇〇	六、〇〇〇	二、〇一七、〇〇〇
二、八〇七	二、二四三	一三七、七五五	四〇、九八三	三五〇、九八〇
四九、〇〇〇	一七、〇〇〇	一六三、〇〇〇	三三、四〇〇	三五六、〇〇〇
(二七、〇三九)	(二、八四四)	(一四、七〇〇)	(三、八五九)	(二七、三八三)
(六、二〇〇)	(六、二〇〇)	(二、三〇〇)	(二七、一〇〇)	(三四〇、四〇〇)
(一七、〇〇〇)		(七、〇〇〇)		
一〇九、九三三	六三、〇七三	三三三、二四八	七〇、五八一	一、六三四、五九一
五、五三四	六三六	九、三六六	一、二六八	九三、五一三
二八、八〇九	一七、二八二	四三、〇二六	一七、一六九	三三五、〇一八
一七、七四四	一〇、一五二	一八、六九二	八、九七	二六四、六七七
六、二五七	一、五七六	一二、六四一	二、六五八	五三、九二三
五、六三三	三三、四三八	一四八、六七四	四〇、四九九	八四七、四七〇
六五〇	三〇〇	二、五〇〇	三五〇	八、三〇〇

四、余 剩 電 力

(八、〇〇〇)

(註)

1、供給力欄中上段は実績下段は計画

2、供給力欄中下段の数値は標準電力量に対する計画発電量を、上段の数値は追加使用分を含む、総発電量の実績を示す。

(二月) (その一)

一、供 給 力

仙 台 東 京 名古屋 大 阪 本州中央部

1 総 計

一、五三、八〇〇

A 水 力

一、三六、八〇〇

B 火 力

一六〇、〇〇〇

C 地帯間融通

(一五、五〇〇)

2 消費石炭量

一、〇三八、八六四

二、割 当 量

1 進 駐 軍

六、一六〇

四五、三四〇

七、六七二

一七、九三三

七、一一四

2 業務住宅用

三、三三三

一一、三三五

三七、六七六

六、一〇四

二四六、三三七

3 小口産業用

一八、一七九

八七、三〇八

三五、六六三

六五、二四七

二〇六、二九六

4 特定大口産業	六、七三	一一、六七〇	三八〇八	七、三九七	二九、六八八
5 大口産業用	五七、〇〇八	一八四、六六七	九九、四一九	二六、三三五	四七九、四四九
三、保 留 分					四、〇〇〇
余 剩 電 力					
(その二)					

広 島 四 国 福 岡 札 幌 全 国

一、供 給 力					
1 総 計	一五三、八〇〇	八四、〇〇〇	三〇三、三〇〇	九〇、四〇〇	二、一五五、三〇〇
A 水 力	二九、八〇〇	六九、六〇〇	一四〇、〇〇〇	六六、八〇〇	一、七六三、〇〇〇
B 火 力	四〇、〇〇〇	一四、四〇〇	一五五、三〇〇	二三、六〇〇	三九三、三〇〇
C 地帯間融通	(一七、〇〇〇)		(廿七、〇〇〇)		
2 消費石炭量	五〇、〇〇〇	(一三、七〇〇)	(一三、〇〇〇)	(一七、六〇〇)	三七四、八〇〇
二、割 当 量	一〇一、九三三	五七、八四七	二四、二三四	六三、九〇七	一、四六六、八二五
1 進 駐 軍	五、五一七	八二六	一〇、〇三三	一、二三七	九四七、四七
2 業務住宅用	二六、四八三	一五、六七三	三九、四八八	一五、三五一	三三三、二八一
3 小口産業用	一七、三三一	九八、一六	一八、一七〇	八、六六四	二六〇、二六七

4 特定大口産業	五、八五七	一、五五六	二、七七七	三、五九	五、二五七
5 大口産業用	四、八〇五	二九、九七七	一四、六六	三、二五六	七、二七三
三、保 留 分	五〇〇	三〇〇	二、一〇〇	三〇〇	七、二〇〇
余 剩 電 力					
(三月) (その一)					

仙 台 東 京 名 古 屋 大 阪 本州中央部

一、供 給 力					
1 総 計					一、七六〇、四〇〇
A 水 力					一、七六〇、四〇〇
B 火 力					
C 地帯間融通					
2 消費石炭量					
二、制 当 量					一、二六四、六七
1 進 駐 軍	六、二七	四、三一	七、七三	一五、四六五	七、八五六
2 業務住宅用	三、九七	一〇九、五四	三、〇三	六、九三	二四三、五七九
3 小口産業用	一七、八〇七	八、六三一	三、五、六八	五、二六六	二〇五、四二二

4 特定大口産業用	七、五七三	二二、七七七	四、一九五	八、〇八四	三三、五六八
5 大口産業用	七、八六六	二四〇、七四四	一三三、〇三〇	一六四、六三二	六〇九、五三二
三、保留分					四、五〇〇
四、余剰電力					(四七、一〇〇)

(その二)

広島 四国 福岡 札幌 全国

一、供給力					
1 総計	一六九、九〇〇	九七、〇〇〇	三三三、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二、四七一、〇〇〇
A 水力	一五八、五〇〇	九四、四〇〇	一八四、七〇〇	七三、七〇〇	二、二七一、七〇〇
B 火力	一一〇、四〇〇	二、六〇〇	一五〇、〇〇〇	二六、三〇〇	一九九、三〇〇
C 地帯間融通	(一)九、〇〇〇		(計)九、〇〇〇		
2 消費石炭量	二五、五〇〇	二、五〇〇	一三六、五〇〇	三〇、三〇〇	(一八四、八〇〇)
二、割当量	二六、六三八	五五、五八	二四四、四三二	七〇、六九八	一、六三二、〇七三
1 進駐軍	四、九九五	七九	八、六三三	一、二二四	八九、四三七
2 業務住宅用	三〇、五七	一六、一五	四〇、八六五	一五、八〇七	三、四六、六六三
3 小口産業用	一七、六八	九、七六	一八、三〇一	八、六四二	二五九、四九九

4 特定大口産業用	六、五六	一、六七三	一三、六七四	二、六三四	五六、二五
5 大口産業用	五七、四三	三七、三五	一六三、八九	四三、四九	九二〇、三九
三、保 留 分	六五〇	三〇〇	二、五〇〇	三五〇	八、三〇〇
四、余 剩 電 力		(三、〇〇〇)			(四九、一〇〇)